慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	執筆者紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	2014
Jtitle	哲學 No.132 (2014. 3) ,p.367- 371
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 : 論集 美学・ 芸術学 : 美・ 芸術・ 感性をめぐる知のスパイラル(旋回)
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000132-0367

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

執筆者紹介（氏名・所属・（専門領域）・主要業績）

佐々木健一（ささき・けんいち）

東京大学名誉教授（美学）

『ディドロ《絵画論》の研究』中央公論美術出版，2013年

『日本的感性――触覚とずらしの構造』中公新書，2010年

『タイトルの魔力――作品・人名・商品のなまえ学』中公新書，2001年

『フランスを中心とする18世紀美学史の研究――ウァトーからモーツァルトへ』岩波書店，1999年

『美学辞典』東京大学出版会，1995年

藤田一美（ふじた・かずよし）

東京大学名誉教授（西洋古典近現代哲学・美学・中国日本思想）

『藝術の存在論――世界述語としての藝術存在』多賀出版，1995年

「啓蒙思想における〈為国家之用〉の論理――西周の啓蒙哲学における美学思想」1・2（東京大学美学藝術学研究室『研究』22・23号，2005–2006年，所収）

「詩論の系譜（一）――プラトンとアリストテレスにおける虚構・美・型・模倣・共感の問題」（東京大学美学藝術学研究室『研究』25号，2007年，所収）

「詩作術の正当性と詩学の位置」（『ギリシャ哲学セミナー論集』VII, 2010年，所収）

「ディオニュソス的なるものの変貌――藝術衝動から哲学概念へ」1・2（日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻『藝文攷』2013・2014, 所収）

西村清和（にしむら・きよかず）

國學院大学文学部教授・東京大学名誉教授（美学・芸術学）

『遊びの現象学』勁草書房，1989年

『フィクションの美学』勁草書房，1993年

『現代アートの哲学』産業図書，1995年

『イメージの修辞学』三元社，2009年

『プラスチックの木でなにが悪いのか』勁草書房，2011年

尼ヶ崎彬（あまがさき・あきら）

学習院女子大学教授（美学・芸術学・舞踊美学）

『花鳥の使――歌の道の詩学』勁草書房　1983 年

『日本のレトリック』筑摩書房，1988 年（ちくま学芸文庫，1994 年）

『ことばと身体』勁草書房，1990 年

『縁の美学――歌の道の詩学Ⅱ』勁草書房，1995 年

『近代詩の誕生――軍歌と恋歌』大修館書店，2011 年

松尾　大（まつお・ひろし）

東京藝術大学美術学部教授（美学）

〔翻訳〕バウムガルテン『美学』玉川大学出版部，1987 年

「フィギュールの翻訳を規定する要因」（『東京藝術大学美術学部紀要』39 号，2003 年，所収）

『レトリック事典』（佐藤信夫・佐々木健一と共著）大修館書店，2006 年

「視覚的記号の関わるフィギュール」（『東京藝術大学美術学部紀要』44 号，2006 年，所収）

「修辞学としてのレトリック――美学からのアプローチ」（菅野盾樹編『レトリック論を学ぶ人のために』世界思想社，2007 年，所収）

大石昌史（おおいし・まさし）

慶應義塾大学文学部教授（哲学・美学・芸術学）

「美学と形而上学との間――ヘーゲル以後の存在論的美学の可能性」（三田芸術学会編『芸術学』6 号，2003 年，所収）

「芸術の再定義――物と事とが交錯する創造の出来事」（前田富士男編『伝統と象徴――美術史のマトリックス』沖積舎，2003 年，所収）

「遊戯における芸術作品の現実性について」（美学会編『美学』213 号，2003 年，所収）

「余情の美学――和歌における心・詞・姿の連関」（三田哲学会編『哲学』118 集，2007 年，所収）

“The Logic of Imagination: Dialectics of Objectification and Signification.” in

CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility, Vol. 5 (2011), Keio University Press, Centre for Advanced Study of Logic and Sensibility, The Global COE Program, Keio University, 2012.

白原由起子（しらはら・ゆきこ）

根津美術館学芸部第一課長（日本仏教絵画史）

「〈伏見稲荷曼陀羅〉考――個人本〈吒枳尼天曼荼羅〉に対する異見」（『MUSEUM』560号，1999年，所収）

"The Fuji Pilgrimage Mandala: Mount Fuji Worship and Its Associated Imagery in the Sixteenth Century"（河合正朝教授還暦記念論文集『日本美術の空間と形式』二玄社，2003年，所収）

「春日宮曼荼羅――図様の諸相と展開」（根津美術館学芸部編『春日の風景――麗しき聖地のイメージ』2011年，所収）

「根津美術館所蔵春日宮曼荼羅考――図様の成立と制作時期」（林温編『日本仏教美術論集1　様式論――スタイルとモードの分析』竹林舎，2012年，所収）

「法隆寺所蔵春日宮曼荼羅考――春日宮曼荼羅の図様展開に関する試論」（『根津美術館研究紀要　此君』4号，2013年，所収）

西木政統（にしき・まさのり）

慶應義塾大学大学院文学研究科助教［博士課程学生］（仏教美術史）

「獅子窟寺蔵薬師如来坐像に関する一考察」（三田芸術学会編『芸術学』15号，2012年，所収）

「江戸川区東善寺蔵薬師如来坐像の図像学的視点について――印相と頭髪表現を中心に」（江戸川区教育委員会『江戸川区の仏像・仏画』2, 2013年，所収）

望月典子（もちづき・のりこ）

慶應義塾大学文学部非常勤講師（西洋美術史・17世紀フランス美術）

『ニコラ・プッサン――絵画的比喩を読む』慶應義塾大学出版会，2010年

「ニコラ・プッサン作《バッコスの勝利》と《パンの勝利》――リシュリュー城「王

の陳列室（キャビネ）」の装飾における意味について」（美術史学会編『美術史』160 号，2006 年，所収）

「17 世紀パリにおける「好事家（キユリユー）」たちの絵画への眼差し」（遠山公一・金山弘昌編『美術コレクションを読む』慶應義塾大学出版会，2012 年，所収）

「「技芸が自然を助ける（Ars naturam adiuvans）」――ニコラ・プッサン《エリエゼルとリベカ》（1648 年，ルーヴル美術館）」（大野芳材編『フランス近世美術叢書 Ⅱ　絵画と受容』ありな書房，2014 年，所収）

“Mars et Vénus de Nicolas Poussin: Sa réception de l’art antique et de la poétique de Marino.” in *17e siècle,* no. 255, Presses Universitaires de France, 2012.

加藤有希子（かとう・ゆきこ）

埼玉大学教育機構教育企画室准教授（近現代美術史・表象文化論・色彩論）

『新印象派のプラグマティズム――労働・衛生・医療』三元社，2012 年

「ミクロコスモスとしての色彩環――ドローネーとグレーズによる 1930 年代壁画制作原理」（美学会編『美学』214 号，2003 年，所収）

「キュビスムと色彩――もうひとつの物語」（前田富士男監修『色彩からみる近代美術』三元社，2013 年，所収）

「芸術は生存に関われるか――エネルギー論からみるアート」（『生存学』5 号，生活書院，2012 年，所収）

池上健一郎（いけがみ・けんいちろう）

慶應義塾大学文学部非常勤講師（西洋音楽史・音楽学）

［Dissertation］*Siciliano in der Instrumentalmusik Joseph Haydns und seiner Zeitgenossen: Untersuchungen zur kompositorischen Auseinandersetzung mit dem Topos im klassischen Stil*, Universität Würzburg, 2013.

「ブルックナーの交響曲における『漸次的結合の構想』と総休止」（日本音楽学会編『音楽学』第 51 巻 3 号，2005 年，所収）

「『おお巨匠よ，貴方を崇拝しています』？　――ブルックナーの《ワーグナー交響曲》」（日本ワーグナー協会編『年刊ワーグナー・フォーラム 2006』東海大学出

版会，2006年，所収）

“Möglichkeiten und Unmöglichkeiten der musikalischen Analyse——Am Beispiel von Beethovens Fünfter Symphonie.” in *2. Deutsch-japanisch-koreanisches Stipendiatenseminar*（*9. Treffen von DAAD-Stipendiaten*）. *10. und 11. Juli 2008*（＝Veröffentlichungen des Japanisch-Deutschen Zentrums Berlin 58）.

篠田大基（しのだ・ひろき）

水戸芸術館音楽部門学芸員（20世紀音楽）

「スティーヴ・ライヒ「漸進的プロセスとしての音楽」諸ヴァージョンの比較——電子音楽からの離脱の軌跡」（慶應義塾大学三田芸術学会編『芸術学』12号，2008年，所収）

「スティーヴ・ライヒの「プロセスとしての音楽」——ポストミニマリズム美術との連関」（美学会編『美学』235号，2009年，所収）

「1920年麻布飯倉のベートーヴェン——南葵楽堂「ベートーヴェン生誕百五十年紀念音楽会」の意義」（慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構『Oxalis——音楽資料デジタル・アーカイヴィング研究』3号，2010年，所収）

“Steve Reich’s ‘Musical Process’: A Linkage with Postminimal Art.” in *Aesthetics*, no. 16, The Japanese Society for Aesthetics, 2012.